

岩手県学校教育情報化推進計画

令和6年6月

岩手県教育委員会

目 次

1	はじめに	
(1)	計画策定の趣旨	1
(2)	計画の位置付け	1
(3)	計画期間	2
2	背景	
(1)	国の動向	3
(2)	岩手県の現状・課題	3
3	取組の視点	6
4	具体的な取組内容	
(1)	I C Tの効果的な利活用の推進	7
(2)	児童生徒の情報活用能力の充実	8
(3)	児童生徒の健やかな体の育成 (60 プラスプロジェクト)	9
(4)	多様な教育ニーズに対応する教育機会の提供	11
(5)	教員の I C T活用指導力の向上と人材の確保	13
(6)	学校における I C T活用のための環境整備	14
(7)	教育データの分析等	15
(8)	I C T推進体制の整備と校務の改善	16
5	推進体制	17
6	資料	
(1)	「いわての情報活用能力体系表例」	18
(2)	I C T活用の実態調査	19

1 はじめに

(1) 計画策定の趣旨

令和元年6月「学校教育の情報化の推進に関する法律」（令和元年法律第47号、以下「法」という。）が成立し、公布、施行されました。本計画は、法第9条第1項において努力義務とされている「都道府県の区域における学校教育の情報化の推進に関する施策についての計画」として定めるものです。

(2) 計画の位置付け

本計画は、法第9条第2項において努力義務とされている、県内市町村の学校教育情報化推進計画の策定に当たっての参考となるものです。

また、本計画は「岩手県DX推進計画」（令和5年3月策定）、「岩手県教育振興計画（2024～2028）」（令和6年3月策定）との整合を図りながら、本県の学校教育情報化に関する具体的な取組等を示すものです。

なお、「岩手県DX推進計画」が改訂された場合は、関連する主な指標及び目標値を見直すこととします。

【参考：学校教育の情報化の推進に関する法律（令和元年法律第47号） 抄

（都道府県学校教育情報化推進計画等）

第九条 都道府県は、学校教育情報化推進計画を基本として、その都道府県の区域における学校教育の情報化の推進に関する施策についての計画（以下この条において「都道府県学校教育情報化推進計画」という。）を定めるよう努めなければならない。

2 市町村（特別区を含む。以下この条において同じ。）は、学校教育情報化推進計画（都道府県学校教育情報化推進計画が定められているときは、学校教育情報化推進計画及び都道府県学校教育情報化推進計画）を基本として、その市町村の区域における学校教育の情報化の推進に関する施策についての計画（次項において「市町村学校教育情報化推進計画」という。）を定めるよう努めなければならない。

3 都道府県又は市町村は、都道府県学校教育情報化推進計画又は市町村学校教育情報化推進計画を定め、又は変更したときは、遅滞なく、これを公表するよう努めるものとする。

(3) 計画期間

本計画は、「岩手県教育振興計画（2024～2028）」と計画期間を合わせ、令和6年度から令和10年度までの5年間を計画の対象期間とします。

2 背景

(1) 国の動向

国においては、令和元年12月にGIGAスクール構想が閣議決定され、「1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたち一人ひとりに個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する」、「これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す」こととされました。

令和4年12月には、法第8条第1項に基づき「学校教育情報化推進計画」が策定され、「第1部 我が国における学校教育の情報化の方向性（総論）」及び「第2部 総合的かつ計画的に講ずべき施策（各論）」が定められています。

(2) 岩手県の現状・課題

ア 全国学力・学習状況調査（小・中学校）

・学校質問紙調査

調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。

上記「問」に対し、「ほぼ毎日活用」「週3回以上活用」と回答した学校の割合（合計値）

【小学校】

	R4年度調査	R5年度調査	R5 - R4（伸び幅）
岩手県	49.3%	71.4%	22.1%
全国	85.1%	90.6%	5.5%

【中学校】

	R4年度調査	R5年度調査	R5 - R4（伸び幅）
岩手県	65.4%	81.9%	16.5%
全国	81.2%	86.7%	5.5%

参考：全国学力・学習状況調査

令和4年度

調査実施日 令和4年4月19日（火）
 調査結果公表 令和4年7月28日（木）

令和5年度

調査実施日 令和5年4月18日（火）
 調査結果公表 令和5年7月31日（月）

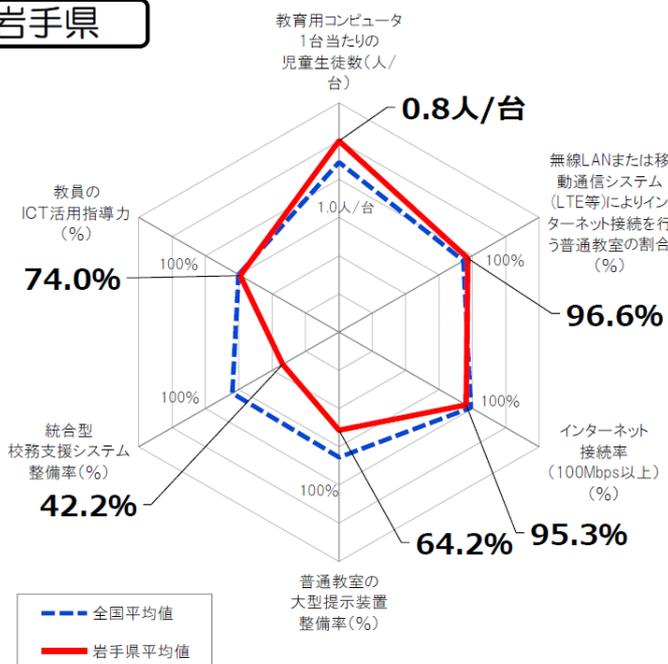
- ・令和5年度全国学力・学習状況調査結果によると、岩手県のICT機器を授業で活用している小中学校の割合は全国に比べ低いとの調査結果となっておりますが、前年度の調査結果と比較すると、県内の活用している学校の割合は大幅に増加しており、全国平均との差も縮小しています。
- ・本県の小学校と中学校を比較すると、小学校の方が活用率が低く、中学校の方が高いとの結果となっております、全国的な傾向と逆になっています。

イ 令和4年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果（概要）

（令和5年3月現在 令和5年10月公表（確定値））

教育の情報化の実態に係る主な指標（概要）

岩手県



指標(全学校種)	岩手県平均値	全国平均値
教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数	0.8人/台	0.9人/台
無線LANまたは移動通信システム(LTE等)によりインターネット接続を行う普通教室の割合	96.6%	97.8%
インターネット接続率(100Mbps以上)	95.3%	98.0%
普通教室の大型提示装置整備率	64.2%	88.6%
統合型校務支援システム整備率	42.2%	86.8%
教員のICT活用指導力	74.0%	78.1%

※「全学校種」とは、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校のことをいう。
 ※「大型提示装置」とは、プロジェクタ、デジタルテレビ、電子黒板のことをいう。

文部科学省「令和4年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」によると、

・教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数については、全国平均値を上回っているものの、

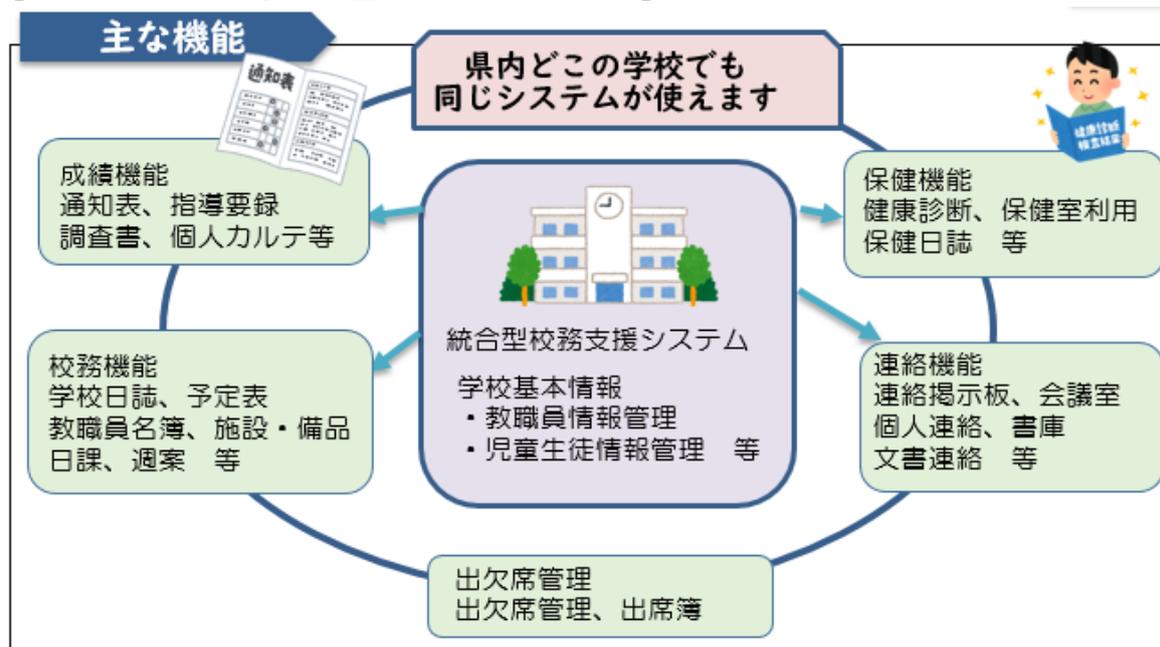
- ・無線LANまたは移動通信システム（LTE等）によりインターネット接続を行う普通教室の割合
- ・インターネット接続率（100Mbps以上）
- ・普通教室の大型提示装置整備率
- ・統合型校務支援システム整備率
- ・教員のICT活用指導力

については、全国平均値を下回っている状況にあります。

このうち統合型校務支援システム整備率に関しては、全国平均値（86.8%）に対し、岩手県平均値42.2%となっており、全国平均値を大幅に下回っています。

岩手県では、「教育活動の質の改善」及び「業務の軽減と効率化」を目的として、「岩手県クラウド版統合型校務支援システム」を導入することとしており、令和6年度から段階的に導入し、令和8年度から全県統一運用を行うこととしています。

【岩手県クラウド版統合型校務支援システム】



教育分野におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機に、社会全体のデジタル化が加速しました。学校教育分野においても、「GIGAスクール構想」が加速し、1人1台端末や通信環境の整備が進みました。ICTを活用した遠隔授業など児童生徒の多様なニーズに対応する環境が整ったこととなります。

現行学習指導要領においては、情報活用能力（情報モラルを含む）を、言語能力や問題発見・解決能力等と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け、その育成のために日常的にICTを活用した学習活動の充実が求められています。

また、教職員の業務負担軽減など学校の働き方改革の推進においても、ICTの積極的な活用が重要です。

社会教育分野においては、オンライン学習やデジタルコンテンツの提供など新たな学びのニーズに対応する必要があります。地域における学びである社会教育には、デジタルデバイドの解消や地域住民のデジタルリテラシーの向上という役割も期待されています。

業務の効率化を図りながら、更に質の高い学びを県民に提供できるよう、教育分野におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進していきます。

4 具体的な取組内容

(1) ICTの効果的な利活用の推進

【目指す姿】

授業や学習活動においてICTを効果的に活用することにより、これからの時代に求められる子どもたちに必要な資質・能力の育成を目指します。

【現状と課題】

- ・児童生徒1人1台端末やネットワーク環境など学校におけるICT環境の整備を進めてきたところであり、ICTの効果的な利活用に向けた実践と検証に取り組んでいく必要があります。

【取組内容】

- ・県と市町村が連携して設置した「岩手県学校教育ICT推進協議会」（令和6年度から「岩手県学校教育DX・学力育成協議会」に移行）を通じたICTの効果的な利活用を推進します。
- ・ICT活用指導力向上のための教員研修の充実に取り組みます。
- ・GIGAスクール運営支援センター等による広域的な活用支援に取り組みます。
- ・1人1台端末の授業における活用や家庭への持ち帰りを進め、ICTを活用することにより、いつでもどこでも、誰とでも、自分らしく学ぶことができ、誰一人取り残すことなく、一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育の実現に取り組みます。

【参考】関連する「岩手県DX推進計画」における主な指標及び目標値

授業等でICT機器を活用し、児童生徒にICT活用について指導できる教員の割合(%)（現状値はR4の値）

現状値	R 6	R 7	R 8	R 9	R10
81	82	86	90	—	—

【工程表】

R 6	R 7	R 8	R 9	R10
ICT機器等の活用の推進				
ICTの効果的活用の実践と教員研修の充実				
GIGAスクール運営支援センター等による活用支援				
岩手県学校教育DX・学力向上育成協議会による連携				

(2) 児童生徒の情報活用能力の充実

【目指す姿】

情報を適切に活用し、問題発見・解決していくために必要な「情報活用能力」を、子どもたちの学習の基盤となる資質・能力として育成していくことを目指します。

【現状と課題】

- ・ G I G A スクール構想により整備された児童生徒 1 人 1 台端末等の I C T 機器を効果的に活用し、児童生徒の情報活用能力を育成していく必要があります。

【取組内容】

- ・ 「いわての情報活用能力体系表例」の活用と普及に取り組みます。
- ・ 情報活用能力育成のためのカリキュラム・マネジメントを推進します。
- ・ 小・中・高の各段階に応じたプログラミング教育の充実に取り組みます。
- ・ 情報モラル教育の充実に取り組みます。

【参考】関連する「岩手県 D X 推進計画」における主な指標及び目標値
授業等で I C T 機器を活用し、児童生徒に I C T 活用について指導できる教員の割合(%) (現状値は R 4 の値)

現状値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10
81	82	86	90	—	—

【工程表】

R 6	R 7	R 8	R 9	R 10
「いわての情報活用能力体系表例」の活用と普及				
情報活用能力育成のためのカリキュラム・ マネジメントの推進・プログラミング教育の充実				
情報モラルに係る児童生徒向けの指導資料を作成・配付				
情報モラル教育の推進				
情報モラル研修会の実施				
情報モラル教育の優良事例の普及				

(3) 児童生徒の健やかな体の育成（60 プラスプロジェクト）

【目指す姿】

児童生徒の健やかな体を育成するため、G I G Aスクール構想により整備された児童生徒1人1台端末等を活用し、将来的には児童生徒が健康・運動に係る保健管理を自ら行うことを目指します。

【現状と課題】

- ・運動時間の減少、肥満である児童生徒の増加等の課題があることから「運動」「食」「生活」習慣の形成に向けて、相互に関連付けた一体的な取組を推進していく必要があります。
- ・児童生徒がI C Tの活用により、継続的に個々の健康課題に応じた保健管理等を充実していく必要があります。

【取組内容】

- ・I C Tを活用した保健管理に関する調査研究に取り組みます。
- ・「運動」「食」「生活」習慣の形成を総合的に支援するチャレンジカードをベースとした児童生徒のための健康づくりサポートシステムの児童生徒1人1台端末等への導入に取り組みます。

【参考】関連する「岩手県DX推進計画」における主な指標及び目標値
運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合(%)（現状値はR 4の値）

現状値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10
88	89	89	89	—	—

【工程表】

R 6	R 7	R 8	R 9	R 10
ICTを活用した 保健管理等に関する 調査研究	児童生徒のための健康づくり サポートシステム導入・運用			
児童生徒のための 健康づくりサ ポートシステム 調達・導入準備 運用準備				
「よりよい運動習慣」「望ましい食習慣」「規則正しい生活習慣」を相互に 関連付けた一体的な取組 (60 (ロクマル) プラスプロジェクト)				
ICTを活用した健康管理の推進				
チャレンジカードの活用				
校内における指導体制の構築				
「運動」「食」「生活習慣」各研修会における研修内容等の充実				

(4) 多様な教育ニーズに対応する教育機会の提供

【目指す姿】

- ・遠隔教育の充実等により、小規模校等の多様性のある学習の確保、障がいや不登校等の特別な支援が必要な児童生徒の多様な教育的ニーズに対応した教育機会の保障を目指します。
- ・高校の早期の段階から理数分野への興味・関心を涵養し、理系人材やデータを収集・分析・利活用できる人材が輩出されています。

【現状と課題】

- ・中山間地域の多い本県では、小規模高校においても生徒のニーズに応じた質の高い授業等を提供していく必要があります。
- ・障がいのある児童生徒へのA T（アシスティブテクノロジー）やI C T機器を活用した教育活動の充実が求められています。
- ・不登校児童生徒等への教育機会の確保が求められています。
- ・全ての高校生がデータサイエンス・A Iの基礎となる理数素養や基本的情報知識を習得することや、大学の理系学部への進学率向上が求められています。
- ・不登校などの未然防止、早期発見・適切な対応を推進するため、アウトリーチ型の支援やI C Tを活用した教育相談体制の一層の充実や関係機関と連携した教育機会の確保等により、誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策を図る必要があります。

【取組内容】

- ・配信拠点から質の高い遠隔授業を配信します。
- ・特別支援学校におけるA TやI C T機器等の効果的な活用を促進します。
- ・長期入院や不登校となっている児童生徒へのI C T機器を活用した授業配信等に取り組みます。
- ・各高校の探究的な学びをS T E A M※の視点から深め、データの収集・分析・利活用に基づく課題解決型学習を推進します。
- ・児童生徒の悩みについて、1人1台端末等を利用した「こころの相談室」や児童生徒の心身の変化を把握する「心の健康観察」の導入・活用などの教育相談体制の充実を図ります。
- ・オンラインやI C Tの活用を視野に入れ、校内の空き教室を活用した「校内教育支援センター」の体制整備の支援を図り、学校内の居場所づくりに努めます。

※STEAM（教育）：「各教科での学習を実社会での問題発見・解決にいかしていくための教科横断的な教育」とされているもの。

【参考】関連する「岩手県DX推進計画」における主な指標及び目標値

配信拠点からの遠隔授業を受信する高校（校）（現状値はR4の値）

現状値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10
5	5	5	5	—	—

【工程表】

R 6	R 7	R 8	R 9	R 10
小規模校における遠隔授業の実施				
AT等の支援機器・支援技術の活用の推進・研修の充実				
ICTを活用した学習支援				
データの収集・分析・利活用に基づく課題解決型学習を推進し、 探究的な学びのSTEAMの視点からの充実				
「校内教育支援センター」の体制整備の支援				
教育相談体制の充実				

(5) 教員のICT活用指導力の向上と人材の確保

【目指す姿】

教員育成指標に基づき、教員が整備されたICT環境を最大限に活用することにより、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ります。

【現状と課題】

- ・学校における教育の情報化の実態等に関する調査（文科省R5.3時点）によると、本県の教員のICT活用指導力は全国に比べ低い状況にあり、ICT活用指導力の向上等に取り組んでいく必要があります。

【取組内容】

- ・GIGAスクール運営支援センターによる機器トラブル等へのヘルプデスクでの対応と訪問指導等の充実を図ります。
- ・ICTを効果的に活用した授業実践に向けたICT支援員等による支援の充実を図ります。
- ・各市町村が配置するICT支援員相互の連携の促進やネットワークの拡大に取り組みます。
- ・総合教育センターによるICT活用指導力向上のための教員研修の充実を図ります。
- ・県立高校の教科「情報」の教員採用に継続的に取り組みます。

【参考】関連する「岩手県DX推進計画」における主な指標及び目標値

授業等でICT機器を活用し、児童生徒にICT活用について指導できる教員の割合(%)（現状値はR4の値）

現状値	R6	R7	R8	R9	R10
81	82	86	90	—	—

【工程表】

R6	R7	R8	R9	R10
GIGAスクール運営支援センター等による活用支援				
ICT支援員の連携促進とネットワークの拡大				
ICTの効果的活用の実践と教員研修の充実				
県立高校の教科「情報」の教員採用の継続				

(6) 学校におけるICT活用のための環境整備

【目指す姿】

GIGAスクール構想等により学校に整備したICT環境の充実を図ります。

【現状と課題】

- ・GIGAスクール構想等により整備したICT機器等を計画的に更新していく必要があります。

【取組内容】

- ・県立中学校及び特別支援学校の児童生徒1人1台端末や、県立学校に整備した大型提示装置等を計画的に更新します。
- ・高速大容量通信に対応したネットワーク環境の充実を図ります。

【参考】関連する「岩手県DX推進計画」における主な指標及び目標値

県立高校のBYOD普及率(%)

現状値	R 6	R 7	R 8	R 9	R10
-	60	100	100	-	-

【工程表】

R 6	R 7	R 8	R 9	R10
ICT機器等の計画的な更新・ネットワーク環境の充実				

(7) 教育データの分析等

【目指す姿】

児童生徒の日々の学習や諸調査、健康状態等の多様な教育データを有効に活用し、データ分析による指導改善に役立て、教育の質的な向上を目指します。

【現状と課題】

- ・児童生徒の日々の学習状況や、諸調査等の教育データの分析等ができる仕組みを導入していく必要があります。
- ・デジタル教科書の活用やC B T※の導入等、児童生徒1人1台端末等のI C T活用を前提とした新たな学びに対応していく必要があります。

※C B T：コンピュータを使ったテスト形式(「Computer Based Testing」の略)

【取組内容】

- ・諸調査等のデータを活用した検証改善サイクルを確立します。
- ・国の動向等を踏まえたデジタル教科書の活用促進やC B T等の導入を検討します。
- ・全県統一の統合型校務支援システムを導入します。

【参考】関連する「岩手県DX推進計画」における主な指標及び目標値
授業等でI C T機器を活用し、児童生徒にI C T活用について指導できる教員の割合(%) (現状値はR 4の値)

現状値	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10
81	82	86	90	—	—

【工程表】

R 6	R 7	R 8	R 9	R 10
諸調査のデータを活用した検証改善サイクルの確立				
デジタル教科書の活用促進			デジタル教科書の効果的活用の検討・推進	
C B T等の導入検討及び活用				
統合型校務支援システム導入			統合型校務支援システム運用	

(8) ICT推進体制の整備と校務の改善

【目指す姿】

県内統一システムを導入し、児童生徒の多様な情報を把握することにより、教育活動の質の改善や、教員の校務負担の軽減と効率化を目指します。

【現状と課題】

- ・学校における教育の情報化の実態等に関する調査（文科省R5.3時点）によると、本県の統合型校務支援システム整備率は、全国に比べ大幅に低い状況にあり、システム導入を推進する必要があります。
- ・教職員の勤怠・サービス管理等のシステム化や、学校徴収金等のキャッシュレス化等により、校務負担の軽減を図っていく必要があります。

【取組内容】

- ・全県統一の統合型校務支援システムを導入します。
- ・教職員の勤怠・サービス管理等のシステム化を検討します。
- ・学校徴収金等のキャッシュレス化を検討します。

【参考】関連する「岩手県DX推進計画」における主な指標及び目標値

統合型校務支援システムの整備率(%)（現状値はR4の値）

現状値	R6	R7	R8	R9	R10
42.2	65	75	100	—	—

【工程表】

R6	R7	R8	R9	R10
統合型校務支援システム導入			統合型校務支援システム運用	
勤怠・サービス管理のシステム化の検討・運用				
学校徴収金のキャッシュレス化の検討・運用				

5 推進体制

岩手県においては、本県学校教育のICT環境の整備と円滑な利活用に向け、岩手県教育委員会と市町村教育委員会が学校教育のICT化に関する事項について検討・協議するため、県教育委員会と県内全市町村教育委員会で構成する「岩手県学校教育ICT推進協議会」を令和2年11月に設置（令和6年度から「岩手県学校教育DX・学力育成協議会」に移行）し、ICT利活用に当たっての課題や活用事例の共有、連携した取組の協議を行ってきました。

今後も、この協議会をはじめ様々な機会を活用し、県教育委員会と市町村教育委員会が連携を図りながら、本県学校教育のICT環境の整備と円滑な利活用を進めていく必要があります。

6 資料

(1) 「いわての情報活用能力体系表例」

岩手県総合教育センターでは、学習指導要領総則に記載されている、学習の基盤の一つである「情報活用能力」の育成のために、岩手県の実態に応じた体系表例を作成しました。

I いわての情報活用能力体系表例 全体版		R5.04.01					
基本的な操作等		小1・小2	小3・小4	小5・小6	中	高	
ICTの活用スキル	起動と終了、ログインとログアウト	01			01	01	
	マウスやタッチパッドの基本操作（右クリック、左クリック、ドラッグ、スクロール）	02 02					
	ホームポジションと文字入力（小：学年×10文字程度/分 中・高：60文字程度/分）	03	01 03	01 03	01	01	
	写真撮影、動画撮影	04			02	02	
	ファイルの保存、呼び出し	02	02	02	02	02	
	クラウド上での協働作業				04	04	
	キーワード検索		05	05			
	ペイントソフト、表計算ソフト、文書作成ソフト、プレゼンテーションソフト等の利用	05	04	04	03	03	
	学習支援ソフトの利用	05	04	04	03 04	03 04	
	問題解決・探究における情報活用	小1・小2	小3・小4	小5・小6	中	高	
A 知識及び技能	収集	必要な情報を集めることができる。	教科書、書籍、インタビュー、メディア等	06	06	06	
	整理・比較	集めた情報を整理することができる。	検索サイトの利用、条件検索、信頼性の吟味	07 08	07	07	
	発信・伝達	情報を、比較、分類、関係づけ、統計等を使って分析することができる。	表計算ソフトや文書作成ソフト、プレゼンテーションソフト等を使って整理	07 08	07 08	09	
	保存・共有	情報を共有することができる。		08	08	08	
	計画・評価・改善	どの手段で情報を収集するか、適切に判断することができる。		08 10	08 10	08 10	
	情報活用	情報活用の計画を立て、評価し、改善することができる。		09 10	09 10	09 10	
	プログラミング	コンピュータが、生活を支えていることを理解することができる。		11	11	11	
	情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	コンピュータの仕組みを理解することができる。				16 17	
	情報通信ネットワークの仕組みを理解することができる。					16 17 18	
	問題を細かく分けて考えることができる。					18 19 20 21	
B 思考力・判断力・表現力等	情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	問題を細かく分けて考えることができる。				21	
	順次、分岐、反復をフローチャート等に表示しながら考えを示すことができる。					21	
	集めた情報を、コンピュータに入力してデータ化することができる。					21	
	プログラムを作成してコンピュータを動かす、自分のやりたいことを実現することができる。					21	
	著作権・肖像権	著作権、肖像権について理解することができる。				21	
	モラル	してはいけないことを理解することができる。（ネットいじめ、誹謗中傷、フェイク情報の送信）				21	
	セキュリティ	依存症と予防について理解することができる。（情報漏洩やなりすまし、ID、パスワード）				21	
	セキュリティ	情報セキュリティを理解することができる。（情報漏洩やなりすまし、ID、パスワード）				21	
	セキュリティ	ID、パスワードの重要性を理解することができる。				21	
	問題解決・探究における情報活用	問題	集めた情報から、課題を立てることができる。				21
C 学びに向かう力、人間性等	学習計画	問題を解決するために、計画を立てることができる。				21	
	判断	どのような情報を集めればよいか判断することができる。				21	
	傾向	表、図、グラフ、テキスト、Webサイトの情報から、傾向をつかむことができる。				21	
	順次・分岐・反復	問題を解決するために、順次、分岐、反復を組み合わせて考えることができる。				21	
	手段	情報を集めるための適切な手段を判断することができる。				21	
	シンキングツール	シンキングツールを使って考えをまとめることができる。				21	
	統計	情報を、統計を使って整理することができる。				21	
	発信	目的や相手によって、適切な手段で情報を発信することができる。				21	
	知の技法	情報を、順位付け・比較・分類などをして整理することができる。				21	
	まとめる	表や写真を使って、情報をまとめることができる。				21	
D 情報モラル・情報セキュリティ	関連付け	集めた情報を関連付けることができる。				21	
	表やグラフ	集めた情報を表やグラフにまとめることができる。				21	
	表現	相手に分かりやすく伝えることができる。				21	
	評価・改善	情報活用の計画を立て、評価し、改善策を考えることができる。				21	
	問題解決・探究における情報活用	解決の方法	問題を解決するために、適切な方法を選んで情報を集めようとする。				21
	試行錯誤	何度も試行錯誤しながら問題を解決しようとする。				21	
	批判的に見る	情報を批判的に考察しようとする。				21	
	振り返り	自分の情報技術の活用の仕方を振り返って改善しようとする。				21	
	概念の形成	集めた情報をまとめて自分なりの考えを生み出そうとする。				21	
	グラフや統計	データをグラフや統計に表してその特徴を捉えようとする。				21	
問題解決・探究における情報活用	人間性	コンピュータを使って、生活をよりよくする方法を考えようとする。				21	
個人情報	自分の個人情報（住所、氏名、写真）を教えないようにする。				21		
依存症の予防	依存症にならないように、時間を守って情報メディアを使うようにする。				21		
偽情報の防止	フェイク情報を送らない、拡散しないようにする。				21		
SNSの特徴	メールでは気持ちが伝わりにくく、誤解を招きやすいことを理解しようとする。				21		
マナー	相手に断ってから、写真を撮るようにする。				21		
情報社会への参画	情報技術を社会に役立てようとする。				21		

「全体版」の他、「各校種例」、「育成場面例」、「事例」も岩手県総合教育センターのホームページに掲載しています。

(2) ICT活用の実態調査結果（概要）

岩手県では、GIGAスクール構想で整備された1人1台端末の一層の活用に向け、児童生徒の授業を担当している教諭等の意識や活用の実態を広く調査し、県教育委員会及び市町村教育委員会の今後の教育施策に資することを目的として、ICT活用の実態調査を実施しました。

○調査対象

岩手県内の公立小中・義務教育学校（国立を除く）、公立高等学校、特別支援学校（国立を除く）の教諭、指導教諭、養護教諭、講師、実習教諭・実習助手等

○実施期間

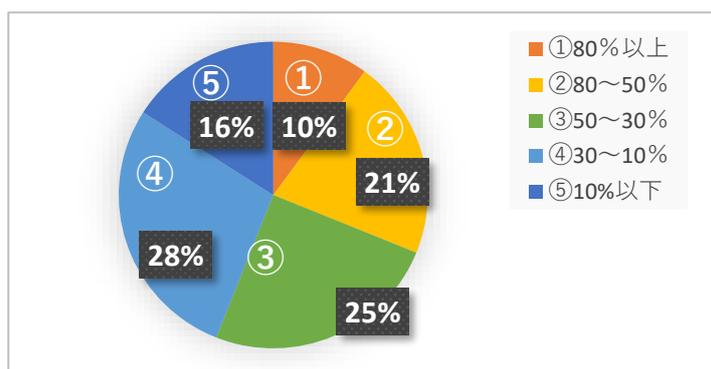
令和5年9月28日（木）～令和5年10月31日（火）

○回答数

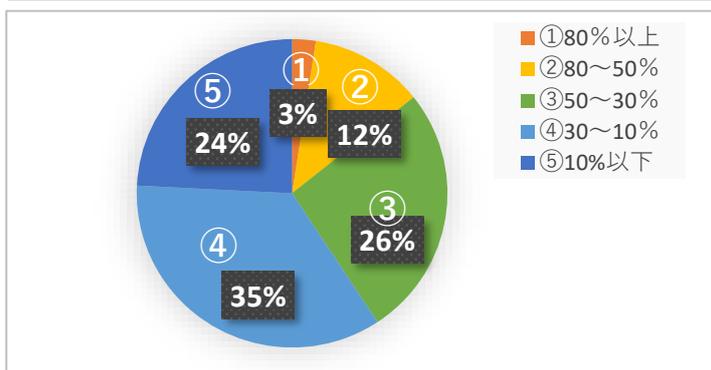
I 小学校・義務教区学校（前期）	2,311名
II 中学校・義務教育学校（後期）	1,155名
III 高等学校	1,616名
IV 特別支援学校	795名

【調査結果概要（主なもの）】

- ・ICT活用（授業・児童生徒）について
（小学校）

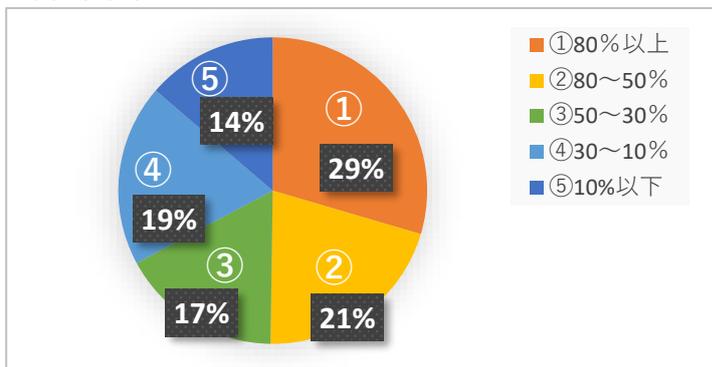


令和5年度の全授業回数のうち、授業で情報端末（パソコン、タブレット等）を使って指導した回数の割合

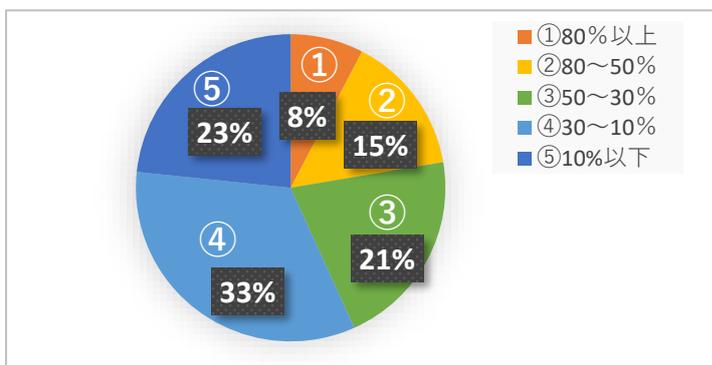


令和5年度の全授業回数のうち、授業で児童生徒に情報端末（パソコン、タブレット等）を使わせた回数の割合

(中学校)

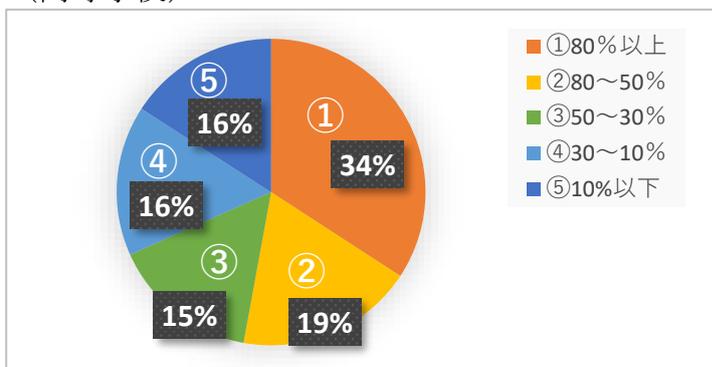


令和5年度の全授業回数のうち、授業で情報端末（パソコン、タブレット等）を使って指導した回数の割合

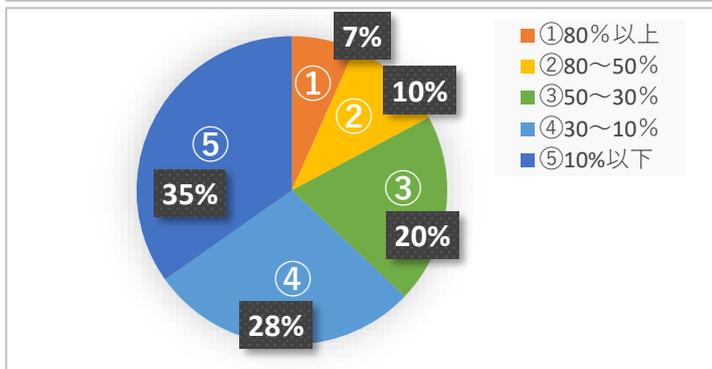


令和5年度の全授業回数のうち、授業で児童生徒に情報端末（パソコン、タブレット等）を使わせた回数の割合

(高等学校)

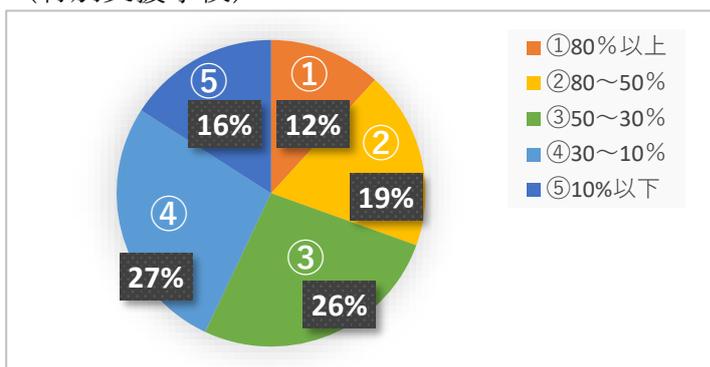


令和5年度の全授業回数のうち、授業で情報端末（パソコン、タブレット等）を使って指導した回数の割合

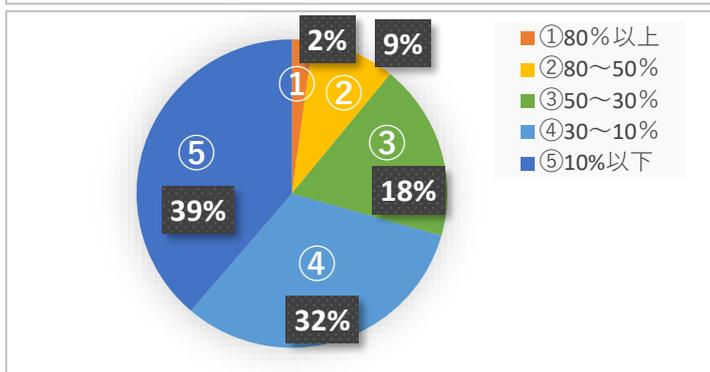


令和5年度の全授業回数のうち、授業で児童生徒に情報端末（パソコン、タブレット等）を使わせた回数の割合

(特別支援学校)



令和5年度の全授業回数のうち、授業で情報端末（パソコン、タブレット等）を使って指導した回数の割合

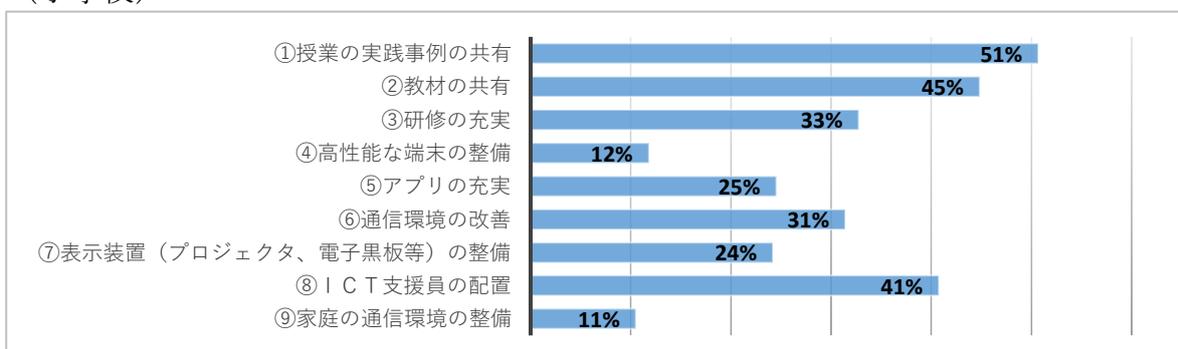


令和5年度の全授業回数のうち、授業で児童生徒に情報端末（パソコン、タブレット等）を使わせた回数の割合

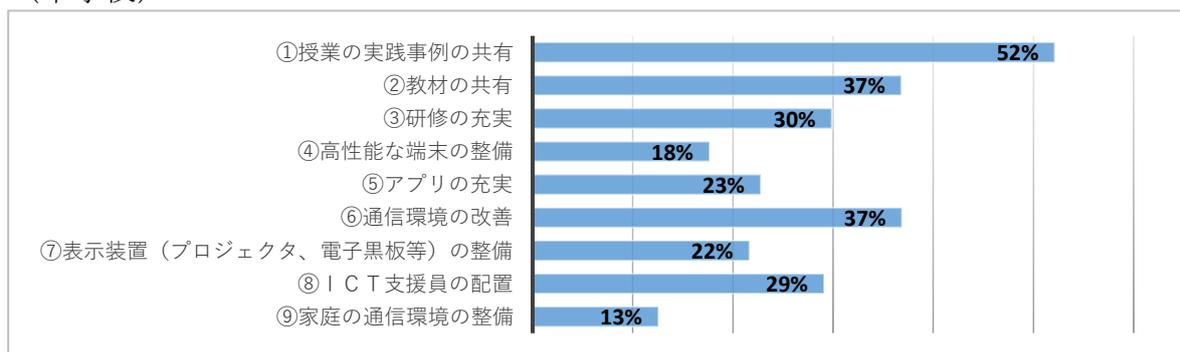
小学校、中学校、高等学校、特別支援学校のいずれにおいても、教員が授業で情報端末を使って指導した回数の割合と、児童生徒に情報端末を使わせた回数の割合に大きな差が生じており、教員がICTを使うスキルにとどまらず、児童生徒自身に活用させるスキルを育成していくことが必要です。

・ICT活用のために必要なこと（上位3つまでを選択）

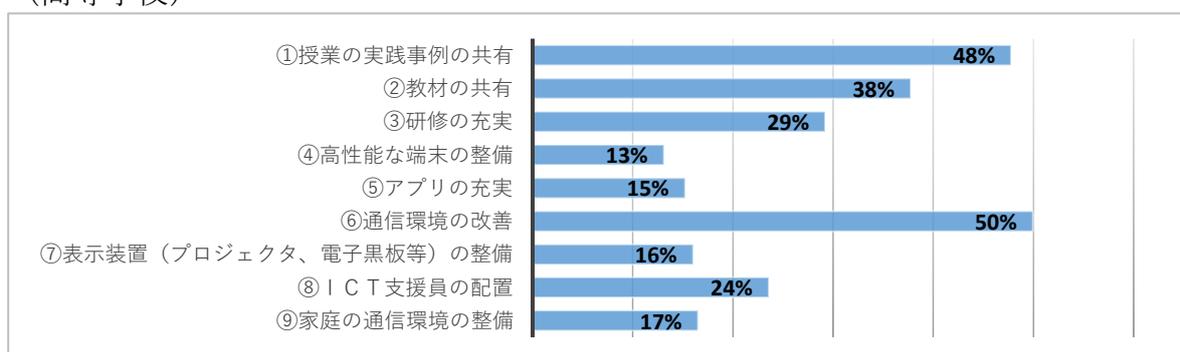
(小学校)



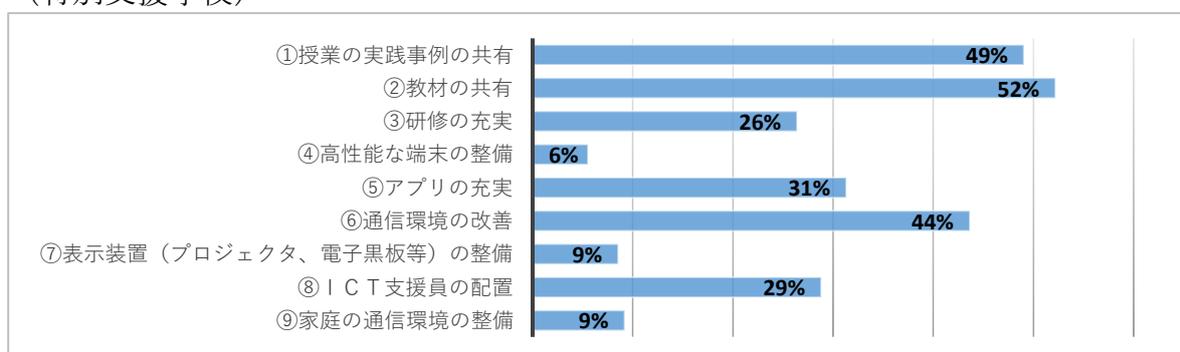
(中学校)



(高等学校)



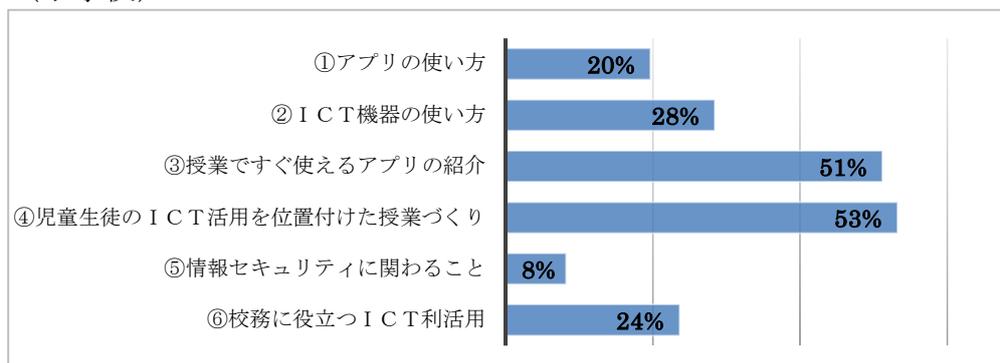
(特別支援学校)



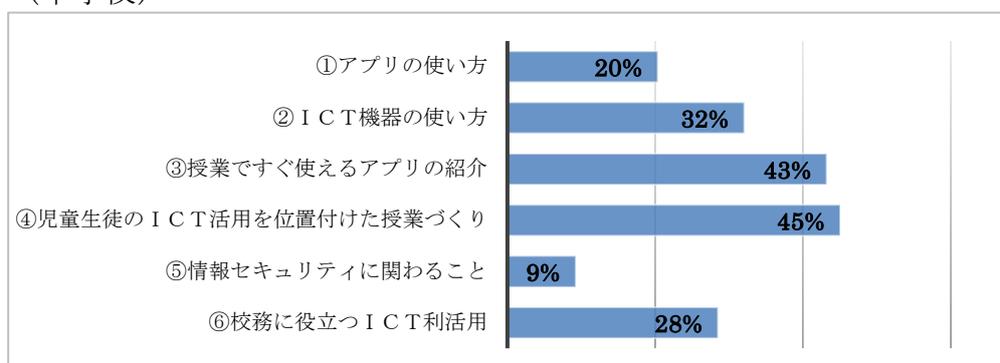
「 I C T 活用のために必要なこと」を上位 3 つまでの選択式で聞いた設問では、「授業の実践事例の共有」が小学校、中学校で最も多く、高等学校、特別支援学校では 2 番目に多いという結果となっています。

高等学校では「通信環境の改善」が最多であり、特別支援学校では「教材の共有」が最多となっています。また、小学校では「 I C T 支援員の配置」が他校種と比較して多くなっています。

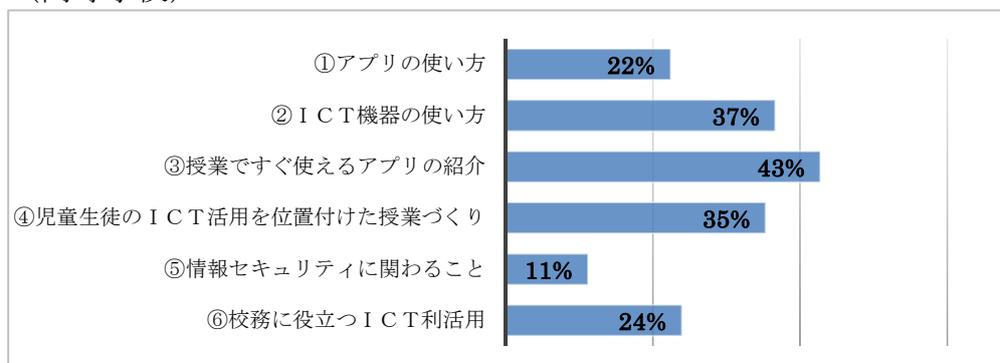
・研修内容（上位2つまでを選択）
（小学校）



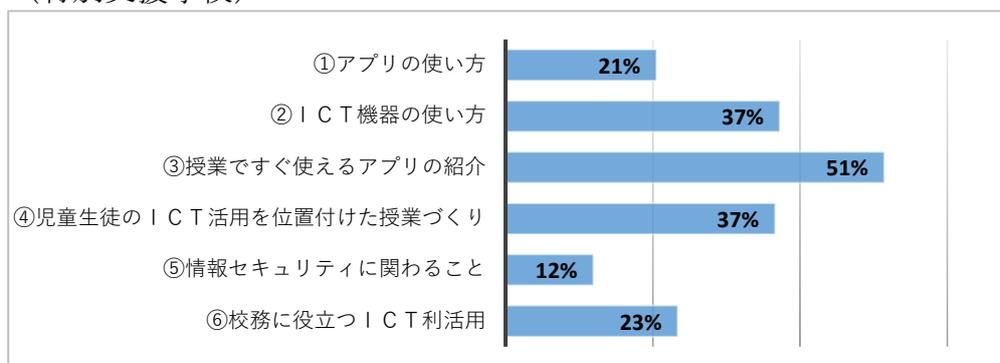
（中学校）



（高等学校）



（特別支援学校）



「研修内容」について上位2つまでの選択式で聞いた設問では、小学校及び中学校では「児童生徒のICT活用を位置付けた授業づくり」が最多、「授業ですぐ使えるアプリの紹介」が2番目となった一方、高等学校及び特別支援学校では「授業ですぐ使えるアプリの紹介」が最多、「ICT機器の使い方」が2番目に多いという結果となっています。（特別支援学校においては、「児童生徒のICT活用を位置付けた授業づくり」も同率で2番目）